20号記念特別記事

『自治研ちば』第20号を迎えて

千葉県地方自治研究センター理事長　法政大学法学部教授　**宮﨑　伸光**

はじめに

2010（平成22）年３月に創刊された本誌は、本号で第20号を迎える運びとなりました。とてもお一人おひとりのお名前を挙げることはできませんが、極めて多数のみなみな様のご理解とご協力を賜りまして、ようやくここまで号を重ねることができました。月並みな言葉で恐縮ですが、心から感謝申しあげます。

千葉県地方自治研究センター（以下、「自治研センター」と略称で記します）は、2009（平成21）年12月19日に一般社団法人として設立総会を開催し、装いを新たに活動を再開しました。以来今日に至るまで、本誌は年3回の定期発行を続けて参りました。その創刊号には、井下田猛前理事長による「発刊にあたって」という巻頭言に当たる文章があります。

そこには、「本誌は、働く者たちのサイドに立脚しつつ鋭い問題意識のもとに、中・長期的課題はもとより時宜に応じて当面する課題の分析・検討や特集、講演会・学習会のまとめと記録、資料の発掘と収集、そして会員と市民・県民の要望や声などを極力盛り込んで、個性豊かな内容の誌面づくりをモットーとします」と記されています。今振り返れば必ずしも当時の思いと意気込みそのままに突き進んできたとは言えないところもあるかもしれません。しかし、いつまで続けられるのかと案じてくださる声を耳にしながらも、ささやかながら工夫を積み重ね、ここまで漕ぎ着けたことに、私たちは密かに喜びを噛みしめております。

本誌は、毎号の構成を多少変えてきました。とはいえ、大きく内容を改めることはしていません。そこで、前号すなわち第19号に至るまでの主な内容を振り返ってみることに致します。

１．問題提起と論考

まず井下田前理事長の「発刊にあたって」の「中・長期的課題はもとより時宜に応じて当面する課題の分析・検討」に相当するところ、すなわち、問題提起と論考を見ましょう。これには、巻頭言、講演記録そして論説が含まれます。

⑴　巻頭言

「発刊にあたって」が創刊号の巻頭言にあたることはすでに記しましたが、続く第２号から本号に至るまで、巻頭言は**【表１】**に示すように、執筆者を交替しながら、毎号に欠かさずあります。改めて見ますと、その時々の話題が織り込まれていることがわかります。

⑵　講演等記録

次にほぼ毎号掲載されている記事は、講演等記録です。自治研センターは、毎年６月の定期総会に合わせて開催する講演会のほか、これもまた「時宜に応じて」ということになろうかと思いますが、幾たびか不定期の講演会を開催してきました。また、自治労千葉県本部が主催する千葉県地方自治研究集会にも共催として名を連ね、講演会等の開催に協力してきました。ときには講演者に引き続きパネルディスカッションへの登壇をお願いすることもありましたが、

【表１】巻頭言一覧

創刊号 (2010年 3月)	井下田猛 （理事長・姫路獨協大学名誉教授）	発刊にあたって
第２号 (2010年 6月)	井下田猛 （理事長・姫路獨協大学名誉教授）	市民的決定と政治的決定の実現
第３号 (2010年10月)	佐藤晴邦 （副理事長）	地域で支えあうネットワークづくり
第４号 (2011年 2月)	網中肇 （研究員）	地方議会　二元代表制を考える
第５号 (2011年 6月)	宮﨑伸光 （副理事長・法政大学教授）	東日本大震災で思う
第６号 (2011年10月)	若井やすひこ （理事・衆議院議員）	これまでの２年、これからの２年
第７号 (2012年 2月)	佐藤晴邦 （副理事長）	大震災から見えた「人間の連帯」
第８号 (2012年 6月)	小川寛 （理事・弁護士）	主権者としての自覚と責務
第９号 (2012年10月)	結城康博 （理事・淑徳大学准教授）	不安を抱える今後の社会保障制度
第10号 (2013年 2月)	佐藤晴邦 （副理事長・全国市町村職員共済組合連合会参与）	年金の世代バランス
第11号 (2013年 6月)	佐藤俊一 （淑徳大学教授）	国力の衰退と大学生の学力低下
第12号 (2013年10月)	髙橋秀雄 （副理事長）	自治研センターの３年半と今後について
第13号 (2014年 2月)	黒河悟 （連合千葉顧問）	今年を私たちの求める政策が何かという認識を深める１年に
第14号 (2014年 6月)	奥野総一郎 （衆議院議員）	後退する「地域主権改革」
第15号 (2014年10月)	佐々木久昭 （連合千葉議員団会議会長・千葉市議会議員）	分権改革20年と自治体議員の今後
第16号 (2015年 2月)	網中肇 （理事・千葉県議会議員）	県議選　定数・区割り等　見直し無し
第17号 (2015年 6月)	田嶋要 （衆議院議員）	統一自治体選挙を終えて
第18号 (2015年10月)	宮﨑伸光 （理事長・法政大学教授）	立憲主義の崩壊過程から再生へ
第19号 (2016年 2月)	若井康彦 （顧問・前衆議院議員）	新たな時代の未知なる道筋

それらも含め、本誌には、当日の録音反訳を基に、読みやすさを考慮して若干の編集を加えた稿を掲載してきました。**【表２】**は、それをまとめたものです。各分野の最前線で活躍される論者に講演をお願いしておりますので、大きく括ることは困難ですが、あえて言えばそれぞれに大局的な問題提起がなされており、たいへん興味深い内容をお伝えすることができました。また、パネルディスカッション等が加わるものについては、さらに当日の雰囲気や議論の深まりを感じていただけたのではないかと思います。

⑶　論説

論説につきましては、とくに主題に枠を設けていません。**【表３】**にまとめましたように、さまざまなテーマが論じられています。今後も幅広い有識者の論壇としての役割を果たしていきたいと考えています。なお、第13号に掲載した申氏の「公共サービス改革の国際比較とその担い手」は、もともとは2013（平成25）年10月26日に設定されていた自治研センター主催講演会のために準備されたものでした。ところがその日は、大型台風の影響により講演会の中止を余儀なくされました。そこで、講演予定稿を基に書き下ろしていただいたものです。

２．東日本大震災特集

2011（平成23）年３月11日14時46分三陸沖を震源とするマグニチュード9.0最大震度７（栗原市）を観測した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」は、まさに未曾有の大災害をもたらしました。東北３県の被災が著しく、また福島第一原

【表２】講演等記録一覧

創刊号	大森彌 東京大学名誉教授	政権交代と公共サービスの再考	設立総会記念講演 2009年12月19日
第２号	結城康博 理事・淑徳大学准教授	民主党政権による社会保障政策のゆくえ	自治研センター主催講演会 2010年 3月13日
第３号	高木健二 地方自治総合研究所研究員	2010年度の地方財政計画と千葉県の財政状況	第２回定期総会記念講演 2010年 6月19日
第４号	名和田是彦 法政大学教授	『新しい公共』自治体でどう取り組むか パネルディスカッション 進　　行：宮﨑伸光（副理事長・法政大学教授） パネラー：横山久雅子（白井市長） 菊地　謙（ワーカーズコープちば専務理事） 網中　肇（自治研センター研究員） 助 言 者：名和田是彦（法政大学教授）	第７回千葉県地方自治研究集会 2010年 9月25日 共催（主催：自治労千葉県本部）
第５号	廣瀬克哉 法政大学教授	今、地方議会に問われているもの	自治研センター主催講演会 2011年 2月12日
第６号	菅原敏夫 地方自治総合研究所研究員	復興への地方財政の役割	第３回定期総会記念講演 2011年 6月18日
第７号	武藤博己 法政大学大学院教授	『入札改革』社会的価値の追究と公契約 パネルディスカッション 司　　会：宮﨑伸光（副理事長・法政大学教授） パネラー：遠峰正徳（市川市副市長） 鈴木　紘（全建総連千葉県連合会執行委員長） 藤代政夫（理事・千葉県議会議員） 助 言 者：武藤博己（法政大学大学院教授）	自治研センター主催講演会 2011年10月23日 自治労千葉県本部共同主催
第８号	楡井久 日本地質汚染審査機構理事長 茨城大学名誉教授	自然の法則・摂理を無視していた巨大広域開発への警鐘	自治研センター主催講演会 2012年 2月18日
第９号	澤井勝 大阪市政調査会会長 奈良女子大学名誉教授	大阪都構想の現状　橋下市政の６ヶ月	第４回定期総会記念講演 2012年 6月16日
第10号	鈴木直道 夕張市長	『夕張の今と未来』新たな可能性を創造するまちへ 対談　鈴木直道（夕張市長） 宮﨑伸光（副理事長・法政大学教授）	第８回千葉県地方自治研究集会講演 2012年 9月22日 共催（主催：自治労千葉県本部）
第11号	上林陽治 地方自治総合研究所研究員 関東学院大学兼任講師	非正規公務員という問題	自治研センター主催講演会 2013年 2月16日 （自治労千葉県本部共催）
第12号	上林得郎 神奈川県地方自治研究センター理事長 神奈川大学非常勤講師	安倍政権と地方行財政の行方	第５回定期総会記念講演 2013年 6月15日 （自治労千葉県本部共催）
第14号	結城康博 理事 淑徳大学教授	高齢者を取り巻く地域力の可能性と限界 パネルディスカッション 司　　会：申龍徹（自治研センター主任研究員 ・法政大学大学院客員准教授） パネラー：東出健治（自治労千葉県本部退職者会会長 ・ケアマネージャー） 大塚美知雄（トータル介護サービスアイ 代表取締役） 結城康博（自治研センター理事 ・淑徳大学教授）	自治研センター主催講演会 2014年 2月15日 （自治労千葉県本部共催）
第15号	今井照 福島大学教授	震災復興から地域再建へ―原発避難と『移動する村』	第６回定期総会記念講演 2014年 6月14日
第16号	杉田敦 法政大学教授	暴走する権力と民主主義 パネルディスカッション 司　　会：宮﨑伸光（自治研センター理事長 ・法政大学教授） パネラー：小西洋之（参議院議員） 廣瀬理夫（弁在宅護士） 杉田　敦（法政大学教授）	第９回千葉県地方自治研究集会講演 2014年 9月20日 共催（主催：自治労千葉県本部）
第17号	秋山正子 白十字在宅ボランティアの会理事長	地域でいきいきと暮らし続けるために パネルディスカッション 司　　会：宮﨑伸光（自治研センター理事長 ・法政大学教授） パネラー：土橋正彦（千葉県医師会副会長） 天野行雄（千葉県議会議員 ・連合千葉議員団会議会長） 石井宏子（千葉県議会議員） 鏡　　諭（淑徳大学教授） コメンテーター：秋山正子（白十字在宅ボランティアの会 理事長）	連合千葉議員団会議調査研究事業第１回シンポジウム基調講演 2015年 2月 7日 共催（主催：連合千葉議員団会議）
第18号	青山彰久 読売新聞本社編集委員	地方創生と地方自治	第７回定期総会記念講演 2015年 6月13日 （自治労千葉県本部共催）

発からの放射性物質の飛散などもあり、世間の耳目が千葉県を素通りしがちなことは否めない事実ですが、この東日本大震災では、地震に起因するあらゆる被害が千葉県内にも及びました。本誌は、当初の予定を変更し、急遽特集を組みました。第５号（2011年６月）と第６号（同年10月）です。また、特集号の後にも関連する記事を積極的に掲載するように努めました。

【表４】は、その一覧ですが、なかでも第12号と第13号で紹介した自治労銚子市役所職員労働組合によるアンケート調査の報告集は、地震発生直後からの市役所職員の実体験等が生々しく綴られ、示唆するところの多いたいへん貴重な資料です。紙幅の事情で本誌には紹介記事しか載せられませんでしたが、自治研センターのウェブサイトに全文を掲載しましたので、インターネットの環境さえあれば誰もが容易にアクセスできます。本誌単独の情報提供に止まらず、本誌を通じた新しい情報提供の途を拓くものにもなりました。

３．各地の魅力再発見

本誌の特徴の１つとして、千葉県内各地を紹介していることも挙げられます。各地の事情を熟知している方による文章によって、魅力が再発見されたり、読者が実際に足を運んでみようと思うきっかけになることを期待しています。

⑴　シリーズ　千葉の地域紹介

「シリーズ　千葉の地域紹介」は、創刊号以来毎号の巻頭言と共に休みなく連載が続いています。各号で紹介している地域は**【表５】**にまとめたとおりですが、これを地図で示してみると**【図１】**のようになります。この図から概ねまんべんなく取り上げているようにも見えますが、まだまだ残された自治体も少なくないことがわかります。

⑵　首長インタビュー

首長インタビューは、**【表６】**にまとめました

【表３】論説一覧

第５号	佐藤俊一（淑徳大学教授） 平成の大合併とコミュニティの多重化
第７号	井下田猛（理事長） 地方自治と原発行財政
第８号	井下田猛（理事長） 自治体当初予算検討の視点
第９号	崎山比早子（高木学校） 低線量放射線リスクはなぜ過小評価されるのか
第11号	丸井敬司（元千葉市立郷土博物館館長） 千葉市における源頼朝の伝説と地域文化の創出に向けて
第13号	申龍徹（主任研究員・法政大学大学院客員准教授） 公共サービス改革の国際比較とその担い手
第17号	吉峯啓晴（弁護士） 岐路に立つ日本
第19号	佐藤晴邦（事務局長） 千葉県は日本の縮図
第19号	井上定彦（島根大学名誉教授） 安保関連法制に対する運動と築きあげる民主主義・自治

【表４】東日本大震災関連記事一覧

第５号	大網裕弥（銚子市職労） 見えてきた課題と今後の対応
第５号	中山高樹（浦安市市長公室長） 東日本大震災における浦安市の被災
第５号	井下田猛（理事長） 地震・津波・原発震災と緊急提言私案
第５号	宮﨑伸光（副理事長・法政大学教授） 数字で掴む自治体の姿《番外編》　数字で伝わる震災の記録
第６号	菅原敏夫（地方自治総合研究所研究員） 復興への地方財政の役割
第６号	角川雅夫（習志野市総務部生活安全室長） 東日本大震災における習志野市の被災と今後の取組み
第６号	塚本弘毅（ジャーナリスト） 通信部日記　東北の通信部で過ごした７年余
第８号	塚本弘毅（ジャーナリスト） 大震災・福島第一原発事故から１年の被災地を歩く
第10号	滝本明良（連合千葉副事務局長） 東日本大震災後の東京電力の取り組み
第11号	黒澤澄朗（八千代市農業委員） 東京電力福島第一原子力発電所と農産物被害（八千代市）
第12号	大網裕弥（銚子市役所職員労働組合） 私たちの責務は語り継いでいくこと（銚子市）
第13号	大網裕弥（自治労銚子市役所職員労働組合） 東日本大震災体験アンケート報告集を発行
第18号	藤原寿和（千葉県放射性廃棄物を考える住民連絡会事務局長） 指定廃棄物最終処分場（長期管理施設）をめぐる現状と問題点

たように、数こそまだ少ない企画です。とはいえ、個々の自治体が置かれた状況に即した具体的な政策が話題に上るため、読み応えのある内容が多く含まれます。インタビュー記事を通じて、首長の知らなかった側面を垣間見る思いがしたという感想を当該自治体の職員の方からいただいたこともあります。

【図１】シリーズ　千葉の地域紹介

【表５】シリーズ　千葉の地域紹介一覧

創刊号	茂原市　茂原市の夏の風物詩 鵜澤輝光（茂原市役所）
第２号	香取市　歴史的資源を活用したまちづくり 吉田博之（香取市職員組合執行委員長）
第３号	銚子市　「東洋のドーバー」銚子屏風ヶ浦 平野寛（銚子市役所）
第４号	我孫子市　召しませ！　白樺派のカレー 嶋田繁（我孫子市役所）
第５号	神崎町　発酵の里・健康笑顔のまち　こうざき 浅野憲治（神崎町役場）
第６号	市川市　ガーデニング・シティ　いちかわ
第７号	鴨川市　「自然と歴史を活かした観光・交流都市」をめざして
第８号	木更津市　ライジング木更津　笑顔の数が増えてゆく
第９号	鎌ケ谷市　世界につながる人と文化の交流拠点「鎌ケ谷」
第10号	芝山町　活力ある　緑の大地と空がふれあうまち・芝山
第11号	旭市　豊かな自然が作り上げる健康都市・旭
第12号	市原市　未来へ向けて　夢発信　いちはら 須藤和人（市原市職員労働組合）
第13号	流山市　「水と緑と歴史のまち・流山」を失ってはならない 梶間恒夫（流山市職員組合）
第14号	柏市　みんなでつくる安心、希望、支え合いのまち　柏 武田新（柏市職員組合）
第15号	松戸市　「矢切の渡しと野菊の墓」ゆかりのまち　松戸 飯沼秀雄（松戸市職員組合）
第16号	佐倉市　歴史と文化　一年を通じて花の咲くまち 佐倉市企画政策課
第17号	四街道市　こどもが真ん中。 みどりいっぱいの四街道市でくらす 四街道市シティセールス推進課
第18号	白子町　九十九里浜の温暖な気候と豊かな自然に恵まれたまち 北田和弘（白子町住民課課長補佐）
第19号	勝浦市　美味しさと歴史にあふれた関東の避暑地 笹原和行（勝浦市役所企画課広報統計係長）

【表６】首長インタビュー一覧

第５号	根本　崇（野田市長） 野田市長、巨大地震と公契約を語る
第６号	宇井　成一（香取市長） 香取市長、震災対策を語る
第８号	熊谷　俊人（千葉市長） 大都市問題
第９号	岩田　利雄（東庄町長） 東庄町の現状と課題
第13号	長谷川孝夫（鴨川市長）
第15号	越川　信一（銚子市長）
第19号	猿田　寿男（勝浦市長）

４．実践報告

千葉県内においてどのような政策課題があり、それぞれの課題についてどのような人あるいは団体が解決に向けて努力されているかをなるべく多面からお伝えすることは、本誌の大切な役割であり、努めていきたいと心得ております。そこで、種々の実践報告も本誌にとって重要な位置を占めます。

⑴　公共の担い手

政策課題に向けた種々の取り組みとしては、必ずしも自治体や国といった行政にとらわれることなく、多様な主体に着目してきました。NPOやボランティア活動など、相互の情報流通に悩みを抱えるところは少なくありません。また、活動を紹介することで新たな参入が期待される側面もあります。**【表７】**は、本誌がこれまで取り上げてきたものの一覧ですが、まだまだ数、種類とも少ないことを自覚しており、各方面からの情報提供を期待しております。

なお、**【表７】**には「公共の担い手」と題されたシリーズに限らず、内容からここに含めることが妥当と判断したものを含んでいます。

⑵　市町村行財政に係る取り組み

市町村の行財政に係る取り組みについては、各市町村議会の議員諸氏が多く執筆の労をとってくださいました。また、事情に詳し

【表７】公共の担い手一覧

第２号		NPO法人子育て支援グループハミングちば
第３号	大塚美知雄	トータル介護サービス　アイ
第４号	虎岩　雅明	パソコンプレックス解消大作戦と地域での世代間交流のきっかけづくり・TRYWARP
第５号		地域コミュニティの再生に貢献・VAICコミュニティケア研究所
第６号	川嶋　正和	ミクロネシア連邦と日本の交流
第６号	根岸　淳一	千葉市成年後見支援センターの取組みについて
第７号	菊地　　謙	生活保護受給者と社会的参加の場づくり
第８号	多田　正志	市民向け公開講座の運営と公共サービス民営化の受託（我孫子市）
第９号	大野　一敏	東京湾三番瀬保存運動に取り組む
第10号	武田　　智	松戸市清掃協業組合
第11号	伊勢　和枝	社会福祉法人　銚子市社会福祉事業団
第12号	石井なおみ	公益財団法人　ちば県民保健予防財団
第14号	鎌田　行平	東日本大震災東北被災地復興支援「ちばの絆」プロジェクト推進会議について（酒々井町）
第15号	志村はるみ	あなたの寄付が地域を支える未来をつくる
第16号	東出　健治	「NPO法人　成年後見サポートアイ」設立
第18号	小柳　光廣	「千葉県労働者福祉協議会」生活困窮者自立相談支援事業等への取り組み

い元職員の方にも原稿を依頼しました。**【表８】**に一覧をまとめました。

⑶　千葉県行財政に係る取り組み

千葉県の行財政に係る取り組みについては、一覧をまとめた**【表９】**に見るとおり、千葉県議会の議員諸氏に原稿の執筆をお願いしました。

【表８】市町村行財政に係る取り組み一覧

創刊号	小川寛（弁護士） 松戸市消防局のパワハラ訴訟の顛末と問題点
創刊号	編集部 国が動かないから地方から変える！ ―野田市公契約条例　2/26に業務委託入札を実施
第２号	三瓶輝枝（理事・千葉市議会議員） 千葉市の平成22年度予算について
第３号	加瀬庫蔵（銚子市議会議員） 銚子市立病院　１年８ヶ月ぶりに再開
第３号	ふじしろ　政夫（鎌ケ谷市議会議員） 北総鉄道運賃値下げと地方自治
第３号	川島邦彦（酒々井町議会議員） 小さな自治体の継続に向けて
第４号	髙橋秀雄（事務局長） 市役所の窓口最前線から
第５号	東出健治（元千葉市就労相談員） 千葉市の雇用推進事業
第６号	黒澤澄朗（八千代市農業委員） 若者に農業をやってみたいと思われる農業を！
第７号	能登甚五（脱原発・市川市民の会） 脱原発へ…小さな一歩でも！
第７号	水口剛（東金市議会議員） 東日本大震災と地方自治体の危機管理
第８号	井原慶一（佐倉市議会議員） 佐倉市議会報告
第10号	布施貴良（千葉市議会議員） 市政改革の推進力としての議会の役割について
第11号	鈴木陽介（四街道市議会議員） 市議会議員一年生の奮闘記
第12号	石原よしのり（市川市議会議員） ペット問題への取組み
第13号	岡部順一（君津市議会議員） まちづくりの重要なポイントは地域自治会!!
第14号	白鳥誠（千葉市議会議員） 千葉市の平成26年度予算と財政課題について
第15号	三瓶輝枝（千葉市議会議員） 財政再建と公共サービスの両立を

５．基礎講座

本書は、読者の自治体政策の研究に資するべく、その基礎を提供する連載講座も当初から企画しました。

そうした連載記事の第一は、創刊号から第11号まで欠かさず続いた井下田前理事長の「房総の自治鉱脈」でした。ご自身が「発刊にあたって」で示された「資料の発掘と収集」を実践されたまさに労作で、歴史に学ぶ姿勢を率先して示されたものでした。しかし、大変残念なことに連載⑪は絶筆となってしまいました。なお、本連載は、遺作として別に一著にまとめられました。

また、長期の連載記事としては、拙稿「数字で掴む自治体の姿」もあります。本号を含めて３回の休載と２回の番外編がありますが、まだ連載は継続中です。

さらに、執筆当時は当自治研センターの主任研究員（法政大学大学院客員准教授）であった申龍徹・現山梨県立大学准教授による「自治体政策形成のキーワード」が５回連載されました。

以上の連載講座につきましては、**【表10】**に各回の主題をまとめました。

６．資料紹介

各種資料を紹介することも、本誌に課せられた

【表９】千葉県行財政に係る取り組み一覧

第２号	天野行雄（理事・千葉県議会議員） 平成22年度一般会計予算について
第６号	ふじしろ政夫（理事・千葉県議会議員） 千葉県平成23年度補正予算から何を見るか？
第７号	矢崎堅太郎（千葉県議会議員） 液状化に強い街へ
第８号	石井宏子（千葉県議会議員） 子ども達の未来のために
第９号	網中肇（理事・千葉県議会議員） 千葉県の外郭団体における仕組み債問題について
第12号	小宮清子（千葉県議会議員） 人間らしく生きぬける県政を
第13号	堀江はつ（千葉県議会議員） 財政健全化へ起債残高を減らすことを提案
第14号	藤代政夫（理事・千葉県議会議員） 平成26年度千葉県予算をどう読みとるか
第14号	湯浅和子（千葉県議会議員） 「千葉県いじめ防止対策推進条例」の成立
第18号	安藤じゅん子（千葉県議会議員） 男女ともにいきいきと輝く平和な千葉へ！
第19号	鈴木陽介（千葉県議会議員） 千葉県にオリンピック・パラリンピックがやってくる！
第19号	野田剛彦（千葉県議会議員） 県政改革！

役割です。公益財団法人地方自治総合研究所や全国各地にある自治研センター・研究所の刊行物をはじめ、当自治研センターが収集した資料は随時本誌においてもお知らせしています。

ここでは、新聞記事の要約を紹介する「千葉県地方自治関係記事」についてのみ【表11】に一覧をまとめました。なお、自治研センターにお運びいただけば、「千葉県地方自治関係記事」の切り抜きファイルはどなたでもいつでも閲覧可能です。

７．その他の自治研センター活動記録

⑴　自治研活動紹介

当自治研センターは、自治労が提唱し各地で実践されている自治研活動を応援し、その推進に向けて協力をしています。たとえば、すでに触れましたが、自治労銚子市役所職員労働組合による東日本大震災に係るアンケート調査は、まさに優れた自治研活動ですが、その広報には

【表10】連載講座一覧

	井下田猛 「房総の自治鉱脈」	宮﨑伸光 「数字で掴む自治体の姿」	申龍徹 「自治体政策形成のキーワード」
創刊号	連載①　夜明けを切り拓いた群像	連載①	
第２号	連載②　差別・制限選挙制度と千葉市の事例	連載②　人口	
第３号	連載③　自治封殺に抗した無産派の営為	連載③　面積と人口密度	
第４号	連載④　戦後直後期の県内選挙動向	連載④　産業構造と市町村類型	
第５号	連載⑤　相次ぐ自治体革新首長の誕生	番外編　数字で伝わる震災の記録	
第６号	連載⑥　自治体警察の登場と 公選制教育委員会の動向	連載⑤　歳入の状況⑴ 地方税	
第７号	連載⑦　レッドパージと県知事・参院補選に勝利	連載⑥　歳入の状況⑵　地方交付税（その１）	
第８号	連載⑧　川鉄の誘致と東電千葉火力発電所の登場		
第９号	連載⑨　県内軍政と米軍基地と 九十九里射撃場問題	連載⑦　歳入の状況⑶ 地方交付税（その２）	
第10号	連載⑩　京葉臨海工業地帯の造成と県の対応	連載⑧　歳入の状況⑷ 国庫支出金・都道府県支出金	
第11号	連載⑪　県内で初めて公害予防闘争に勝利	連載⑨　歳入の状況⑸ 地方債	
第12号		番外編②　県内各町村の 財政健全化に係る指標	連載①　新しい社会の形を求めて
第13号		連載⑩　歳出の状況⑴ 目的別歳出	
第14号		連載⑪　歳出の状況⑵ 目的別歳出（その２）	連載②　条例で拓く自治体政策
第15号		連載⑫　歳出の状況⑶ 性質別歳出	連載③　市民協働を軸とする総合計画
第16号		連載⑬　歳出の状況⑷ 充当一般財源	連載④　ICTを活用する自治へ
第17号		連載⑭　歳出の状況⑸ 経常収支比率	連載⑤　2015年度予算で見る政策重点
第18号			
第19号		連載⑮　収支状況	

当自治研センターのウェブサイトを活用していただいています。その他の既報は、本誌第13号の嶋田繁（我孫子市職員組合書記次長）「『手賀沼ふれあい清掃』からまちづくりへ」および第18号の大網裕弥（自治労銚子市役所職員労働組合）「地域の再生に挑む『夕張』のいま」の２件で、その件数はわずかですが、今後もご紹介をしていきます。

【表11】千葉県地方自治関係記事一覧

第４号	井下田猛（理事長）	千葉県地方自治関係記事	第１分冊　(2010/03/28 ～　05/31) 第２分冊　(2010/06/01 ～　07/30) 第３分冊　(2010/08/01 ～　10/06)
第５号	鶴岡美宏（研究員）	新聞の切り抜き記事から	第４分冊　(2010/10/10 ～　12/02) 第５分冊　(2010/12/03 ～ 2011/02/06) 第６分冊　(2011/02/07 ～　04/08)
第６号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第７分冊　(2011/04/06 ～　06/22)
第７号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第８分冊　(2011/06/24 ～　09/23) 第９分冊　(2011/09/26 ～　12/07)
第８号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第10分冊　(2011/12/08 ～ 2012/02/22)
第９号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第11分冊　(2012/02/22 ～　05/11) 第12分冊　(2012/05/12 ～　08/24)
第10号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第13分冊　(2012/08/26 ～　12/04)
第11号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第14分冊　(2012/12/04 ～ 2013/02/23)
第12号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第15分冊　(2013/02/23 ～　05/28) 第16分冊　(2013/05/29 ～　08/29)
第13号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第17分冊　(2013/08/30 ～　11/06)
第14号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第18分冊　(2013/11/06 ～ 2014/01/16) 第19分冊　(2014/01/17 ～　03/17)
第15号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第20分冊　(2014/03/17 ～　06/02) 第21分冊　(2014/06/03 ～　08/18)
第16号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第22分冊　(2014/08/19 ～　11/06)
第17号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第23分冊　(2014/11/07 ～ 2015/02/06) 第24分冊　(2015/02/10 ～　03/31)
第18号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第25分冊　(2015/04/01 ～　06/05) 第26分冊　(2015/06/06 ～　09/10)
第19号	鶴岡美宏	新聞の切り抜き記事から	第27分冊　(2015/09/11 ～　12/03)

⑵　自治研センター活動成果報告

本誌そのものが当自治研センターの活動成果であることに違いはありませんが、それ以外にも有形無形の実績があります。なかなかその全体像をお示しすることはむずかしいのですが、一部については次の２つの稿があります。

発行図書紹介、網中肇（理事・千葉県議会議員）「医療なくして子育てできず」第11号所収。

行政サービス研究会報告、井原慶一（研究員）「千葉県内市町村の行政サービスの比較調査結果まとまる」第19号所収。

むすび

以上、第19号までの本誌を振り返りました。もちろん、ここまでに挙げたもので内容の全てが網羅されたわけではありません。たとえば読者からの投稿などもありますが、ここでは省略いたしました。

冒頭でもご紹介いたしました「発刊にあたって」では、本誌の目標として「集団的・組織的な地方自治研究を下敷きとしながら当センターの狙いと作風として、地方自治の新たな理論と実践のたしかな指針を発信・提示すること」が掲げられています。私ども本誌の編集に関わる者は、これを前理事長の遺訓として継承し追究して参ります。

本稿を結ぶにあたり、改めまして本第20号に至るまでの間ご支援を賜りましたみなみな様に厚く御礼を申しあげますとともに、今一度井下田猛前理事長の言葉を「発刊にあたって」から引き、私どもの変わらぬ決意といたします。

「本誌を介して人びとを輝かせ、市町村を輝かせ、そして千葉県全体を生きいきと光輝かせる媒体となるように努めます。」